

土壌熱消毒の普及へ

神奈川県・JAさがみ 営農職員対象に実習

【神奈川県・さがみ】JA わったハウス内にホース
さがみはこのほど、茅ヶ ちがみは、このほど、茅ヶ
崎市萩園の宮川好勝さん (40) のハウスで、JA
職員を対象に土壌熱水消 毒の実習会を開いた。参
加したのは、各営農セン ターの営農技術研究会員
ら9人。

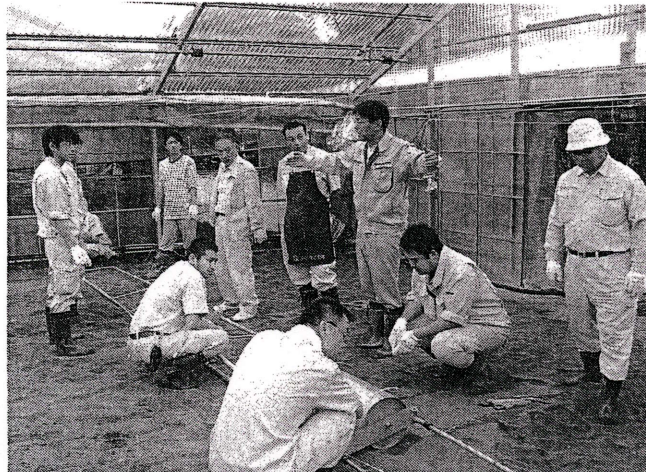
参加者は、JA技術顧 問やメーカー技師の説明
を受け、トマト栽培が終

わったハウス内にホース や機器を設置。畑をビニールシートで覆い、始動 ボタンを押すと、ウインチが散水装置を時速1・6メートルのゆっくりした速度で引き、土壌消毒が始まった。装置から噴出した95度の熱湯は、土壌に湯気を立ててしみこんでいった。

ないため、有毒物質によ る環境汚染の危険性が少 ない。燃料代を心配して 導入をためらう農家もい るが、3～4年に1度の 消毒で済むため、薬剤消 毒よりコストはかからな い。経験した農家の中 には、「燃費の分は品質や 収量で十分カバーでき る」と話す人もいる。ハ ウスを提供した宮川さん

も「4年前に実施して病 気がきれいになくなり、 高品質のトマトやホウレ ンソウが出荷できるよう になった。以前より扱い やすく、運転音も静かに なった」と信頼を寄せて いる。

JAでは、昨年度まで に装置4台を購入し、希 望者に貸し出している。 山村高治技術顧問は「効 果の高い装置なので、ぜ ひ多くの組合員に利用し てもらいたい」と話して いる。



散水装置をセットする職員